



石垣港新港地区

旅客船ターミナル 暫定供用



暫定供用式典の開催

石垣港は八重山圏域における物流・人流の拠点として、生活物資や建設及びエネルギー等の関連貨物を移入し、周辺離島へ供給するなど、極めて重要な役割を果たす港として国の重要港湾に位置づけられています。近年はクルーズ需要の高まりを背景に、クルーズ船専用岸壁の整備が求められています。これまで、クルーズ船専用岸壁が未整備のため貨物専用岸壁での受入れや、7万トン級を超える



式典であいさつする福井照沖縄大臣



式典でのテープカットの様子

クルーズ船については沖泊し、テンドーボートに乗り換えて上陸せざるを得ないなど、時間的ロスが発生し、八重山圏域における観光振興を推進する上で大きな課題となっています。

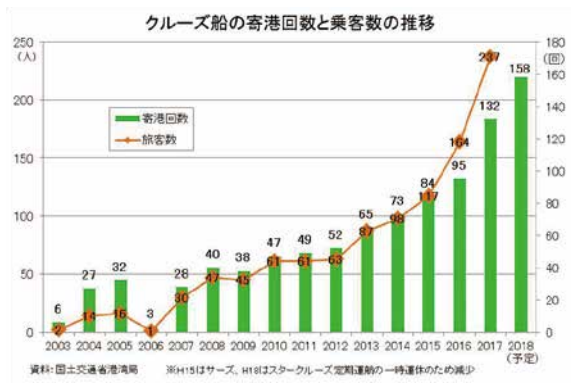
これらの課題を解決すべく、平成17年度より「石垣港新港地区旅客船ターミナル整備事業」が着手され、この度、クルーズ船専用岸壁として整備予定の延長420mのうち、295m、水深9mが暫定供用されました。

暫定供用にあたり、福井内閣府沖縄担当大臣、高橋国土交通大臣政務官ほか多くの来賓のご参列のもと、記念式典が盛大に開催され、式典の中で福井大臣は「今回の暫定供用により八重山圏域ひいては沖縄県の観光振興に大きく寄与するものと期待するとともに、引き続き、『観光客の満足度及び安全性の向上』及び『着地型観光』の充実が図られるよう観光振興を積極的に支援していく」旨ご挨拶があり、続いて関係者によるテープカットが行われました。

八重山地域及び石垣港の現状

石垣港は北緯24度20分、東経124度8分の亜熱帯地域に位置し沖縄本島から南西に410km離れた八重山群島の中心地である石垣島に位置しており、八重山の島々をつなぐ離島航路の拠点として重要な役割を果たしています。また、500km圏内には台湾、1,000km圏内には上海やアモイ、さらに1,500km圏内には香港や広州があり、ショートクルーズに適した立地条件を背景に、急増するアジアのクルーズ需要の取り込みが期待されています。2017年には132回のクルーズ船寄港があり、過去最多を更新し、全国では5番目を記録しました。2018年には更なる寄港回数が増加が見込まれており、158回(対前年比で1.19倍)の寄港を予定しています。

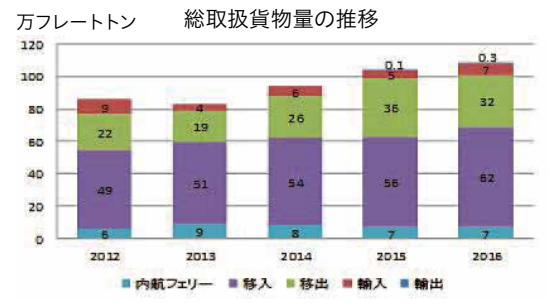
順位	港湾名	回数
1	博多	326
2	長崎	267
3	那覇	224
4	横浜	178
5	石垣	132
6	平良	130
7	神戸	117
8	鹿児島	108
9	佐世保	84
10	八代	66



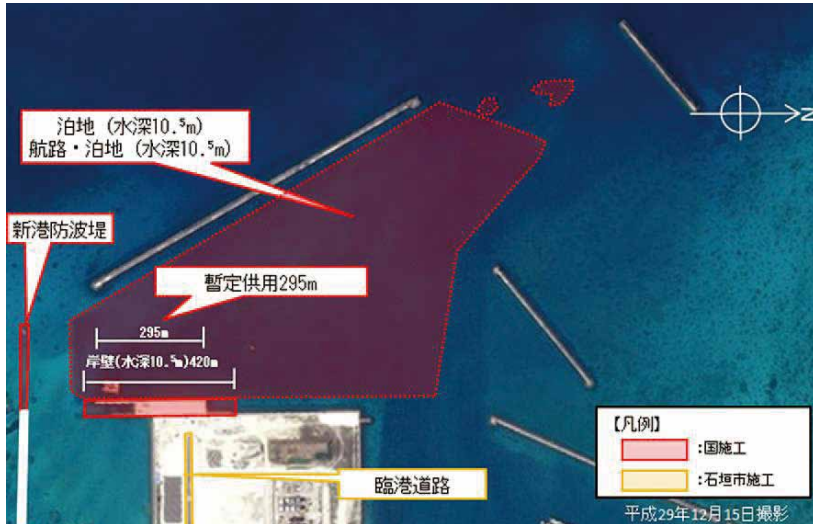
石垣港における課題

人流・物流の拠点として、益々賑わいを見せる石垣港ですが、以下の課題があります。

- クルーズ船専用岸壁が未整備であったため、寄港するクルーズ船は浜崎町地区の貨物岸壁で受け入れざるを得ず、クルーズ船の寄港可能日が限られていました。
- 7万トン級までのクルーズ船は貨物岸壁へ接岸可能ですが、そのため貨客が輻輳し、荷役作業の効率性と旅客の安全性の確保に課題が生じていました。
- 7万トン級を超えるクルーズ船については検疫錨地に沖泊し、テンドーボートに乗り換えて上陸しており、乗客全員が上陸するまで平均して約3時間程度を必要としていました。(2017年7万トン級超の寄港実績46回)
- 大型化するクルーズ船に対応するため、更なる岸壁の延伸が求められています。



クルーズ船着岸時の旅客と貨物との混在状況



【暫定供用の概要】

対象船舶：7万トン級クルーズ船
 整備施設：岸壁 水深9m、延長 295m

【全体計画】

対象船舶：20万トン級クルーズ船
 整備施設：岸壁(水深10.5m)延長420m
 航路・泊地(水深10.5m)
 防波堤、臨港道路 等
 事業期間：平成17年度～平成32年
 事業費：227億円

事業の効果

- 今回の暫定供用により7万トン級までのクルーズ船が専用岸壁に接岸可能となります。
- 貨物船との利用調整が解消されることで、寄港可能日が増え、多くのクルーズ船の受入れが可能となり国際観光収益や営業収益の増加が期待されるとともに、市民との交流機会が増加します。
- 貨物と旅客の輻輳が解消されることにより貨物岸壁における荷役作業の効率化が図られます。また、旅客船専用岸壁を利用することにより、旅客の安全性が確保され、八重山観光における満足度の向上とイメージアップにつながります。



暫定供用式当日、供用第1号となったスーパースター・ヴァーゴ (75,338トン)

石垣港の今後

■ 完成イメージ(将来計画分を含む)



石垣港では今後も引き続き見込まれるアジアにおけるクルーズ需要の拡大やクルーズ船の大型化を踏まえ、石垣港地方港湾審議会(2017年5月17日)を経て、岸壁スペックを水深10.5m、延長420mに変更し、これにより20万トン級のクルーズ船の受入れも可能となる見込みです。今後も八重山諸島の国際観光拠点としての役割を果たすため、岸壁の延伸のほか、臨港道路整備や旅客ターミナルビル等、更なる整備が予定されています。

おわりに

八重山観光の玄関口としての機能を高め、八重山地域における観光振興を推進するためには、港湾などの社会資本整備だけでなく、バス・タクシーなどの二次交通の確保やふ頭における旅客の安全対策に加え、観光情報の発信の強化や物販店の充実などによる旅客の満足度や利便性向上など、ソフト面の充実も必要不可欠となります。

今後も、他部局や地元自治体などの関係各所と緊密に連携し、八重山地域のみならず、沖縄全体の発展のために様々な取組を進めて参ります。